

令和6年度学校運営評価について

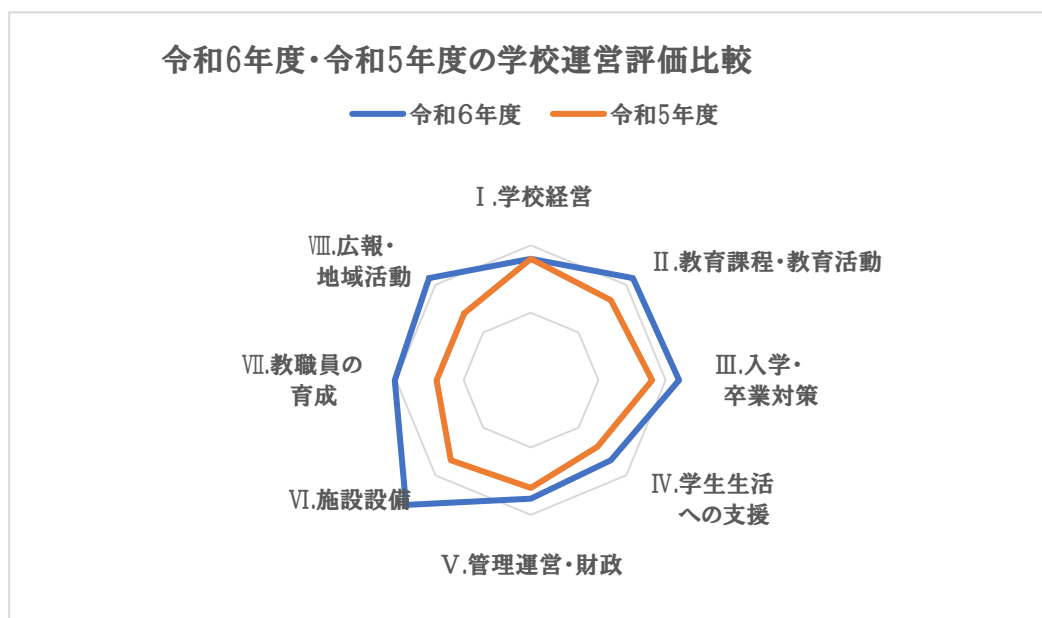
沼津市立看護専門学校

本校は、生命の尊厳といつくしみの心を基盤とした人間性を育み社会に貢献できる看護師の育成を教育理念に掲げ、看護実践者の育成に取り組んでいます。本校の教育・管理運営の質の維持と向上を図るため、令和6年度学校運営評価（自己点検及び自己評価）を行いましたので、評価結果を公表します。

令和6年度 学校運営評価

評価項目	I.学校経営	II.教育課程・教育活動	III.入学・卒業対策	IV.学生生活への支援	V.管理運営・財政	VI.施設設備	VII.教職員の育成	VIII.広報・地域活動
令和6年度	3.70	3.87	3.90	3.64	3.68	4.11	3.81	3.87

※評価基準は、3点を標準としています。



評価項目	自己点検・自己評価の概要	平均点
I 学校経営	■ 令和6年度学校重点目標に対する達成状況 ① <u>看護師になる意志のある学生を定員確保する</u> 指定校推薦入試・社会人入試を新たに導入したほか、急遽追加募集を実施し、入学生の確保に努めた。令和7年度入学生27名。 ② <u>看護師国家試験合格と進路決定支援を行う</u> 第114回看護師国家試験 卒業生24名全員合格、就職率100% ③ <u>ICTを活用した教育の推進と教員の資質向上に努める</u> 令和5年度に校内のICT教育環境を整備。令和6年度はICTに関する教員資質向上研修会を実施し、教員のICT活用能力の向上を図った。 ■ 組織としての問題への取り組みに改善の余地があるため、改めて組織全体での情報共有、課題解決に取り組んでいく。	3.70

カテゴリー	自己点検・自己評価の概要	平均値
Ⅱ 教育課程・教育活動	■ 令和 4 年度から ICT 能力の強化が組み込まれた新カリキュラムを開始し、令和 5 年度に ICT 教育環境を整備。令和 6 年度は授業における ICT 機器の更なる活用を目的に教職員の勉強会や資質向上研修会を実施。教員の ICT 機器活用スキルが高まり、授業へ展開することが可能になったことから、評価点が上昇したと分析している。令和 7 年度から電子教科書・テキストを導入し、さらなる ICT 教材の効果的な活用に取り組む。 ■ 試験結果が到達レベル未達成の学生に対しては再試験を実施したほか、必要に応じて放課後を利用した個別指導を行うなど、可能な限り学生支援を行った。 ■ 授業の終講時アンケート、試験結果、学生の反応をもとに各教員が授業を振り返り、授業内容・教授方法の工夫・改善に努めた。	3.87
Ⅲ 入学・卒業対策	■ 入学生確保の取組 少子化や東部地区の看護系大学の定員増の影響で入学生確保が困難になると予想し、指定校推薦入試及び社会人入試を新たに導入したほか、急遽追加募集を行った。令和 7 年度入学生:27 名 ■ 学習意欲が高く、看護師資格取得を目的とした学生を確保するとともに、性別を少子化に伴い女性人口も減少することから男性の入学生確保に向けて取り組む必要性を感じている。 ■ 令和 6 年度卒業生の状況 就職率:沼津市内 79.2% 静岡県東部地区 95.8% 看護師国家試験:合格率 100%	3.90
Ⅳ 学生生活への支援	■ 経済的側面の学生支援 高等教育の修学支援新制度(給付奨学金・授業料減免)・日本学生支援機構奨学金の申請受付事務のほか、各種奨学金の情報提供を行った。 また、教育訓練給付制度の対象講座の指定を受け、社会人のキャリア形成に対する支援体制を整備し、次年度入学生等に対する制度の周知に努めた。 ■ 学生の自主的な活動の支援 ボランティア活動など学生の自主的活動を支えるよう努力したが、前年度に比べ自己評価点が低下した。現状サークル組織は無いが、運動のための体育館使用は増えているため、学生に対し団体設立を促したい。	3.64
Ⅴ 管理運営・財政	■ 運営費予算については、優先度を踏まえ適正かつ計画的に執行した。 ■ 令和 6 年 8 月の南海トラフ地震臨時情報発令を契機に「災害時の対応」を見直し、全学生に周知した。また、沼津警察署及び静岡県交通安全協会沼津支部の協力により道路交通法の改正点、自転車運転時の注意点などをテーマとした交通安全講習会を開催し、更なる交通安全意識の向上に努めた。 ■ 学生満足度調査を 2 回実施。学生から寄せられた意見を教職員間で共有し、学校運営の改善に努めた。	3.68

カテゴリー	自己点検・自己評価の概要	平均値
VI 施設設備	■演習室・図書室・ゼミナール室等は、授業時間外の学生の自主学習にも十分に活用されている。 ■研修を通じて教員の ICT 教育機器や教材の活用能力が向上し、これらを活用した授業展開が促進された。 ■電気代が高騰しており、学生には引き続き節電への理解を促していく。 ■昨年からの空調機器の不調が度々発生し、夏には熱中症患者が 1 名発生した。学生満足度調査でも、学生から空調機器の使用や室温に関する指摘が寄せられた。快適な学習環境を確保するため、空調設備の適切なメンテナンスを行う必要がある。	4.11
VII 教職員の育成	■臨床での看護技術の向上のため、経験の浅い実習担当教員を対象に市立病院で短期研修を実施した。実習担当教員として、臨地の実習指導者とのコミュニケーションを深めることや、実習の展開で学生が戸惑わないよう準備している。 ■令和 6 年度から教員の授業を他の教員が参観し、講評する制度を再開した。他の教員の講義を参観することで、自己の授業の参考にするだけでなく、学生を客観視することができ、多くの学びに繋がっている。 ■教員の授業や実習指導、日々の学生個々への対応、その他行事の準備など、時間に追われる状況の中で、どのように時間を割いていけるかが難しい課題となっている。	3.81
VIII 広報・地域活動	■学校の広報活動として、入学式、看護のこころを誓う会、オープンキャンパス、学生祭、卒業式等の行事開催についてタイムリーにホームページを更新するよう取り組んだ。 ■学生祭を一般公開とし、健康に関する学習発表や模擬店などを通じて地域の方々と交流を図ることができた。 ■地域貢献・奉仕活動としては、新カリキュラムでは「地域」が重要なキーワードになっており、学校に寄せられる学生ボランティア募集については積極的に協力し、地域から声を掛けていただける存在となりつつある。 令和 6 年度は「ゆりはかマルシェ」、片浜地区防災キャンプ、市立病院啓発イベント、「ふくsee 福祉まつり」他のイベント等に学生ボランティアが参加し、好評を得ている。 地域の皆様に学校の存在を知っていただくことから始めているが、看護専門学校が地域に求められる存在となるよう今後とも広報活動、地域貢献・奉仕活動に取り組む。	3.87